

A型肝炎の予防接種を受けられる方へ

1. A型肝炎について

A型肝炎は、A型肝炎ウイルス（HAV）の感染によって発症する急性肝炎です。潜伏期間は2～6週間程度といわれています。わが国では近年生活環境の整備により、感染の機会は少なく、55歳以下ではA型肝炎に対する免疫がほとんどないと考えられています。

A型肝炎の症状としては38℃以上の発熱・全身倦怠感・頭痛・食欲不振・腹痛・下痢・黄疸等がみられます。A型肝炎が流行している地域や、海外のA型肝炎常在地への出張や旅行（短期渡航）、赴任や留学等（長期渡航）の場合などにワクチン接種が勧められます。

2. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和2年10月1日以降適応されます。一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

3. 次の方は接種を受けないで下さい

- ① 明らかに発熱している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ A型肝炎ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある方
＜アナフィラキシー反応とは＞
急激に起こる、じんま疹、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害
血圧低下 等のショック症状
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方
（予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります）
- ⑤ 妊婦または妊娠している可能性がある方

4. 次の方は接種前医師にご相談下さい

- ① 心臓血管系、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、及び発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱があった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のあった方
- ③ 過去にけいれんの既往がある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ A型肝炎ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こす恐れのある方

5. A型肝炎ワクチンの接種スケジュール

筋肉又は皮下注射にて3回接種します

1回目 0.5ml

2回目 0.5ml (1回目より2～4週後)

3回目 0.5ml (1回目より6ヶ月後)

長期に抗体価を維持するには3回目の追加接種をお勧めします。

6. 接種後の副反応

発熱、倦怠感、頭痛、発疹等を認めることがありますが、通常2～3日中に消失します。また接種部位の発赤・疼痛・掻痒感、腫脹、硬結、熱感等を認める場合がありますが、これも通常2～3日中に消失します。

7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。
(入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう)
- ② 接種後は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状(高熱、けいれん等)を呈した場合は、下記までご連絡下さい。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター